

## 会議記録簿

会議名	平成30年度 第5回千曲市地域公共交通網形成計画策 定分科会	受託者	特定非営利活動法人 SCOP
		作成者	牧野 透太
場所	千曲市役所更埴庁舎 講堂		
日時	平成30年11月28日(水) 10:00~12:00		

### 1 開会

### 2 分科会長あいさつ

### 3 会議事項

#### (1) 計画の体系の確認

- ・「資料1」について事務局(SCOP)より説明

#### 《質疑》

##### (高澤委員)

現状・課題(3)については、「進める必要がある」などのいいまわしではなく、「進める」といいきった方がいいのではないかと。

現状・課題(4)ダイヤについての不満とあるが、その内容はなにか。

基本方針案(2)通勤・通学については、「可能性のある地域について」とあるが、可能性のある地域とはどのような地域か。

利用環境整備については、現状・課題に触れられていないので、何か課題があれば、あげたほうがいいのではないかと。

観光振興については、今回の資料では見られないが、どのようにお考えか。

##### (事務局)

現状・課題(3)については、記載を変更したい。(4)については、鉄道との接続といった課題があったので、記載したい。

通勤・通学については、現在の通学利用がある移動を指しているが、もう少し具体的に標記したい。

利用環境整備についても、現状・課題と対応するようにしたい。

観光の部分は、本日は資料として出していない。方針の中で、生活路線の中に組み込むのは難しいという議論があった。語り部タクシーや姨捨のバスについてもあり方を検討したい。生活路線バスとは切り離して検討したい。

##### (柳澤会長)

実施事業の文言は現状・課題と対応するように記載してもらいたい。本日は路線の見直しのなかで(1)公共交通網の整備をご審議いただくことになるが、タクシーの運行というのはここに入るのか。

##### (SCOP)

公共交通網の整備ということであれば、タクシーも網の一部ということで、語り部タクシーも公共交通網の整備として実施事業1に入れたい。

##### (柳澤会長)

その点、もう一度整理してほしい。

## (2) 地域公共交通網整備事業（案）について

- ・「資料2」「当日追加資料」について事務局（SCOP）より説明

### 《質疑》

#### （柳澤会長）

まず、基本的な考え方として、地域のバス路線を幹線軸、地域/生活交通軸、フィーダーの3つに整理することについては、異論ないということで整理してよいか。

#### （一同）

異議なし

#### （柳澤会長）

異論ないということで、具体的な内容の議論に入りたい。

まず、骨格となる幹線軸について①～④の4案提示いただいたが、この方向についていかがか。ちなみに、確認だが、②のピストン運行型は車両2台での運行は可能か。

#### （事務局）

可能である。

#### （柳澤会長）

もう一点、「稲荷山―上山田間の移動に時間がかかる」というデメリットはどういうことか。

#### （SCOP）

「稲荷山から上山田病院に行きたい」というケースを考えていただきたい。①の従来型であれば距離の短い左回りが選べるが、②のピストン型では、右回りで遠回りしていかなければいけないことを意味している。

#### （柳澤会長）

そのほかに、幹線について利用者の目線からいかがか。

#### （北島委員）

バスの利用が少ない理由として、「行きたいところへ行くまでに行く必要がないところをぐるぐる回される」ということがある。それと、「鉄道との接続ダイヤがあっていない」この2点と考える。その点から考えると、大循環というのは本当に必要があるのかと思う。今、例示いただいた稲荷山から上山田に行きたい人が年に何人いるだろうか。

地域公共交通網の設計というが、しなの鉄道や民間のバス会社の路線をどうこうというのは市からは要望する程度しか、意見できない。このあたりは、どのようにお考えか。

#### （事務局）

公共交通網形成計画とはいえ、路線設計という点では循環バスをどうするかという問題になる。

利用促進という点では、すべての公共交通にかかってくるが。

#### （SCOP）

1点目のご指摘ももっとも考える。確かに、路線設計においては、“主な移動”を重視すべきである。鉄道との結節については、ひとつの路線で2つ以上の駅に結節をとると、設計上は乗継ぎが難しくなる。ただ、利用者の意見として「極力、乗継ぎをしたくない」というものもある。

#### （北島委員）

そういうことを考えると、ターゲットを絞って、朝夕は鉄道駅までの接続のためのダイヤ。日中は通院などを想定してはどうか。

少数派の移動まで配慮するなら結局デマンドになってしまうか。

(平林委員)

我々老人としては、この事業はもともと移動困難者への対応として始まったと考えている。高齢者は足腰が弱くなっているため、なるべく乗継ぎがない、“歩かなくて移動できる”ことを考えていただきたい。結節をとるなら乗れる場所を確保していただきたい。

(SCOP)

屋代の北側については、東部線のフィーダーでカバーしたい。

平林委員の意見は、利用者目線として重要な意見として承りたい。

(高村委員)

個人的には、デマンドのなどが充実してくれば、いいと考えている。できれば、これくらいの段階で、一度市民から意見を収集してもらいたい。

(事務局)

いま、東部地区だけデマンド交通を実施しているが、運行経費的に全市に展開するのは難しいと考えている。また、タクシー業界とお話しする中では、運転手の確保も難しくなっているという事情もある。

パブリックコメントについては、ある程度たたき台がしっかりした中で、お示ししたいと考えているが。他の自治体の事例などはどうか。

(SCOP)

他の自治体等を見て、例えば、今回の①～④の案で住民投票的にパブリックコメントをしても、意見が割れてしまう。このような会議である程度道筋をつけることが必要ではないか。

(柳澤会長)

あまりにも代案が多い状態で、市民に投げても、混乱するのではないかと思う。市民に示すならある程度案が絞られてからではないかと思う。今後の対応については、少し事務局でも考えてもらいたい。

(高村委員)

千曲市の他の計画をみても、住民説明会への参加も少なく、役員だけがくる状態になっている。ある程度、内容を反映できるタイミングで開催してもいいと思うのでご検討いただきたい。

(柳澤会長)

交通事業者からのご意見はいかがか。

(齊藤委員)

循環線は1周どれくらいか。

(SCOP)

1周1時間程度と想定している。

(齊藤委員)

民間の事業者の考えでは、利用者が多いところに資源を投入して、そこで稼いでいこうと考える。当社の路線でも鉄道と併走している路線では、あまり利用者がいないのかなという印象がある。④の案を軸に考えるのが、よいのではないか。

(久保委員)

今の従来型の路線の方が、利用者にとってはいいのではないかと考える。所要時間については、従来型

には課題があるが、利用者像をみると、高齢者が多いことから、乗り継ぎがないことが重要ではないか。

**(山崎委員)**

実利的な面から考えると④の案がよいかと考える。駅と病院、学校、スーパーを通りながら駅へ運行すればお客さんが乗ると考える。ただ、広い公共性という視点から考えると①も捨てがたい。一本循環線があるといいのかなとも考える。大循環線はいま、1周1時間40分くらいかかるのでそれを短縮してもらえればいいと思う。

**(藤井委員)**

鉄道事業者としては、鉄道のダイヤは新幹線、JR 小海線等他社線との接続もあるので容易には変更できない。バスの方で合わせていただきたい。鉄道と並行した路線についてデメリットを心配する意見があったが、私としては鉄道の駅と駅の距離があるなかで、それを補完するバス路線については、利用があるのかなと思う。

**(高澤委員)**

非常に重要な議題なので、また、持ち帰って検討したい。③④の違いについて、フィーダーとあるが、どのようなフィーダーとなるのか、利用実態も分析する中でということになるが、その辺は、われわれも実態を踏まえ、検討してみたい。

**(宮本委員)**

幹線軸の定義のところだが、“市の中心部を周遊する”とあるが、千曲市の中心部は(屋代駅周辺、戸倉駅周辺)2つなのかと考える。“市の中心部を周遊する”というと長くても30分という距離かなと思う。そういう意味で、市民からも違和感が無いか、意見集約をしてもいいと思う。

**(玉井委員)**

質問と意見とある。まず、質問だが、代案の①～④の4つだが、すべてのダイヤを①～④のどれかにするという趣旨か。要は先ほど話のあった、稲荷山から上山田といった移動があるのであれば、その時間帯だけスポット的にそのような運行をするのも手ではないか。組み合わせであってもいいと考えたが、そうしない理由があればお聞きしたい。

意見として、県としても交通事業者の乗務員不足や交通事業者の赤字、市の財政負担も増えている。県内19市では財政負担が2倍近くに増えている。このあたり、利用者の人にも認識してもらい、多少バスのダイヤにあわせた生活もしてもらい必要があるのではないかと。

**(事務局)**

今、大循環線の利用者は全利用者の3分の1である。しかし、収支で見れば、少ない状況である。それは、障がい者の方が作業所への通所に使っており、障がい者は無料という運賃設定になっているためである。

**(柳澤会長)**

ほかに、ご意見があれば、よろしいか。

いまの議論のなかで、「乗り継ぎが負担となる」という議論があった。片や、「利用者の多いところを手厚くする」という議論もあった。集約すると、①または、④に集約されると考えるが、そのような中で、玉井委員さんからは使い分けてはどうかという意見もいただいた。

事務局で再度①、④を軸にして利用状況を再度分析し、検討したい。よろしいか。

つづいて、地域/生活交通軸に移りたい。

(北島委員)

姨捨線に限って見直ししたいということなのか。地域/生活交通軸を見直ししたいということなのか。

(SCOP)

全市的に考えている。ただ、川西の地区については、屋代駅と千曲駅とあるため、複数案を提示している。

(北島委員)

川西地区、更級地区の実情を考えると、千曲駅ということは考えなくてもいいのではないか。

(平林委員)

この路線ととったのはアンケートでこの路線を望んでいる人がいたからなのか。利用者がいるという前提のもとに組んだのか。

(SCOP)

そういうわけではない。今の利用状況では屋代駅への移動が多い。ただ、代案として千曲駅も考えられたため、併記した。

(高村委員)

区長さんくらいに意見を聞いてみてはどうか。

(事務局)

大田原線と姨捨線が重複しているので、振り向けてみてはという代案だった。前段で利用者に対してはアンケートも聞いている。ある程度方向性が固まった段階で地域にも意見を聞いていきたい。

(柳澤会長)

では、姨捨線については、①の案を基本として取りまとめたい。  
交通事業者さんから、いかがか。

(齊藤委員)

地域/生活交通軸についても①の方向でいいのではないか。

(久保委員)

いま、みたところでは特に問題はない。

(山崎委員)

東部線をやっているが、私としては見直し後の方がいいのかなと思う。個人的な意見だが。

(高村委員)

稲荷山駅に行くことは考えられないか。

(SCOP)

そのような需要もあると聞いているが、市の中心部でもある屋代駅にあつめるというコンセプトをまずは大切にしたい。

(柳澤会長)

では、姨捨線については、①の案で、地域/生活交通軸については集約したい。

#### 4 その他

#### 5 閉会

以上

